

国土利用計画(北海道計画)－第5次(素案)－への意見に対する対応

※太枠は、素案を修正。

団体名	該当箇所	意見	理由	対応及び理由
置戸町	1－(2)－ウ－(ウ) 災害に対して脆弱な道土 (P 4)	<ul style="list-style-type: none"> ・より脆弱さを露呈した格好となった平成28年8月の台風(大雨)災害を盛り込む必要がある。 <p>例：「平成28年8月の十勝地方をはじめ全道各地に被害をもたらした大雨災害のように」</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見を踏まえ、次のとおり修正します。 <p>「また、平成28年8月から9月にかけて本道に大きな被害をもたらした大雨等による災害にみられるように、雨の降り方は・・・。」</p>
函館市		<ul style="list-style-type: none"> ・今年、北海道を4つの台風が通過したことで、交通が寸断され、農地が流出するなど、道民の生活はもとより、社会経済全体に大きな被害をもたらしたことも、記載した方が良いのではないか。 		
	1－(2)－エ 道土利用の基本方針 (P 5)	<ul style="list-style-type: none"> ・「3つの基本方針とし」とあるが、(ア)から(オ)までの5つの基本方針が記されており、3つのなかの5つなのか分かりにくくなっている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・「1－(2)－エ」では、(ア)から(オ)まで記述していますが、道土利用の基本方針は、前書きで記述しているとおおり、(ア)、(イ)及び(ウ)の3つとしています。 ・また、(エ)及び(オ)は、前書きで記述しているとおおり、基本方針で示した土地利用を実現するための方策について、その考え方を記述しているものです。

団体名	該当箇所	意見	理由	対応及び理由
(函館市)	1-(2)-エ-(エ) 複合的な施策の推進と最適な土地利用の選択 (P7)	<ul style="list-style-type: none"> ・タイトル名を「複合的な効果をもたらす施策の推進と～」の方が良いのではないのでしょうか。 	<p>「財政状況が厳しいなかより効果の高い施策を優先的に取り組む」ということが本文の趣旨の一部ではないかと思いました。より読み手に伝わりやすくするためタイトルに追記してはどうでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見のとおり修正します。
	1-(4)-オ 道路 (P12)	<ul style="list-style-type: none"> ・「公共・公益施設の共同溝への収容や無電柱化に配慮する」とし、20ページの「オ都市における安全性の向上」で「道路における無電柱化などの対策を進めます」とあるので、特に都市部における道路の無電柱化に精力的に取り組んでいただきたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見については、今後の施策を進める上で参考とさせていただきます。

団体名	該当箇所	意見	理由	対応及び理由
(函館市)	2-(2) 地域別の概要 (P17)	<ul style="list-style-type: none"> 従前から道土の利用区分を「農地、森林、宅地等の地目別区分及び市街地」としているが、「市街地」は、規模の目標に記載はあるものの、地域別の概要に記載がない。規模の目標に掲げる場合、地域別の概要を記載せずとも支障ないのか。(※国土利用計画法施行令(国土利用計画に定める事項)第一条第1項第二号国土の利用目的に応じた区分毎の規模の目標及び地域別の概要) 		<ul style="list-style-type: none"> 国土利用計画では、「市街地」については、これまで合計の内数として参考として掲載していたものでありますが、他の区分と異なる性格のものであることから、第5次全国計画では、記載を見直し、2-(1)ーウで「市街地」を削除しています。 また、国土利用計画では、市街地を人口集中地区(DID)とみなしていましたが、人口減少下においては、「市街地=DID」という整理はなじまないとの考えから、第5次全国計画では、表での表記を「(参考)人口集中地区(市街地)」としています。 ご意見を踏まえ、第5次全国計画にならない、次のとおり修正します。 <p>2-(1)ーウ 道土の利用区分 「<u>道土の利用区分は、農地、森林、宅地等の地目別区分とします。</u>」</p> <p>表 「市街地」 ↓ 「<u>(参考)人口集中地区(市街地)</u>」</p> <p>※「道土の利用区分」で「市街地」を削除したこと、「表」で「市街地」は参考として掲示していることから、「市街地」については、「地域別の概要」で記述していません。</p>

団体名	該当箇所	意見	理由	対応及び理由
(函館市)	3-(3)-ウ 持続可能な森林管理 (P21)	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な森林管理を行うことが、沿岸漁業等、水産振興にも繋がるものであることを記載していただけないか。 		<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な森林管理が水産振興に繋がるものであることはご意見のとおりと考えておりますが、ここでは、「3-(3) 持続可能な道土の管理」のために必要な取組の一つとして、森林の適切な整備・保全という視点から記述しています。
	【参考付表】 各地域における利用区分ごとの規模の目標 (P26)	<ul style="list-style-type: none"> 原野等について、全道計では減少すると予想されているが、道南連携地域において増加すると見込まれる理由をご教示願う。 		<ul style="list-style-type: none"> 最新の統計調査(2015年農林業センサス)の結果等をもとに数値を精査した結果、原野等の面積については、道南連携地域をはじめ全ての地域において減少となっています。
	全体	<ul style="list-style-type: none"> 内容が重複している箇所が多い。 例:P3 (イ) 		<ul style="list-style-type: none"> 「1-(2)-エ」で記述している「道土利用の基本方針」に基づく土地利用を、「1-(3)」の「地域類型別の土地利用の基本方向」や「1-(4)」の「利用区分別の土地利用の基本方向」で、視点を変えて改めて記述しているものです。
	用語解説	<ul style="list-style-type: none"> 用語解説は第4次計画のとおり下に記載されている方が見やすい。 		<ul style="list-style-type: none"> 用語解説に掲載した用語は、現行計画に比べ数が多いとともに、説明も詳細にしたことから、巻末に掲載したものです。

団体名	該当箇所	意見	理由	対応及び理由
北海道開発局 建設部河川計画課	3-(5) 土地の有効利用の促進 (P24)	<ul style="list-style-type: none"> 前計画では「ウ 水面・河川・水路～生物の多様な生息・生育環境機能発揮等」という項目があったが、今回計画では、どこか別な箇所で記述をまとめたと考えれば良いか。 	<ul style="list-style-type: none"> 前回計画での記載項目が、項目毎削除されているため。 	<ul style="list-style-type: none"> 「水面・河川・水路」については、現行計画では、農地や森林など他の利用区分と同様、前半部分（1-(4)）と後半部分（3-(7)）の両方に記述していましたが、次期計画では、内容が重複することから、「水面・河川・水路」を含む利用区分に関する事項は前半部分（1-(4)）でまとめて記述しています。 なお、次期計画の「3-(5) 土地の有効利用の促進」では、「空き家等への対応」、「所有者の所在の把握が難しい土地への対応」といった今日的課題への対応に限定して記述しています。 また、全国計画においても、「水面・河川・水路」については、前計画では前半部分と後半部分の両方に記述されていましたが、現行計画では後半部分には記述されていません。
環境省 自然環境局 国立公園利用推進室	1-(3)-ウ 自然維持地域 (P10)	<p>適正な管理の下で、自然の特性を踏まえつつ、エコツーリズムなど自然体験・学習等の自然とのふれあいの場としての利用を図るなど</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>適正な管理の下で、自然の特性を踏まえつつ、エコツーリズムや自然体験・学習等の自然とのふれあいの場としての利用を図るなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「エコツーリズム」が、「自然体験～」を修飾しているのであれば、修文は不要ですが、「エコツーリズム」と「自然体験～」を列記でお考えであれば意見のように修正をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自然体験・学習等の自然とのふれあいの場としての利用」の具体例として「エコツーリズム」を記述しています。

団体名	該当箇所	意見	理由	対応及び理由
国土交通省 水管理・国土保全局 水資源政策課	用語解説 ※流域 (P34)	<ul style="list-style-type: none"> ・内容の整合がとれていないと考えるため、以下のどちらかの記載にしてはいかがか。 ①一般的な「流域」について解説している場合 「※」を削除（全国計画と同様の記載） ※流域 集水域と同義であり、水系をとり囲む分水嶺で区画された範囲をいう。 ②P34 3行目「流域の総合的かつ一体的な管理」の「流域」を解説している場合 用語解説を修正 ※流域 集水域と同義であり、水系をとり囲む分水嶺で区画された範囲河川に雨水が流入する水系単位の流域に加えて、地域の特性と実情に応じ、地下水が涵養・浸透・流下・滞留する地域、水を利用する地域、陸域からの影響が及ぶ沿岸地域を含め、人の活動により水循環への影響があると考えられる地域全体をいう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「流域の総合的かつ一体的な管理」に用いられている「流域」は、「水循環基本計画」（平成27年7月10日閣議決定、本文P20）で定義されているため、左記②の修文が適当。 ・一般的な「流域」について解説している場合は左記①の修文が適当。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見を踏まえ、次のとおり修正します。 ※流域 <u>ここでいう「流域」とは、河川に雨水が流入する水系単位の流域に加えて、地域の特性と実情に応じ、地下水が涵養・浸透・流下・滞留する地域、水を利用する地域、陸域からの影響が及ぶ沿岸地域を含め、人の活動により水循環への影響があると考えられる地域全体をいう。</u>

団体名	該当箇所	意見	理由	対応及び理由
事務局 (土地水対策課)	3-(4)-キ 野生鳥獣による被害防止等 (P23)	<p>・・・狩猟者の減少に対応するため人材育成を推進します。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>・・・狩猟者の減少と高齡化に対応するため人材育成を推進します。</p>	<p>・「人材育成を推進」する背景として、狩猟者の「高齡化」についても記述。</p>	<p>・「・・・狩猟者の減少と高齡化に対応するため人材育成を推進します。」</p>
パブリックコメント	意見なし。			